



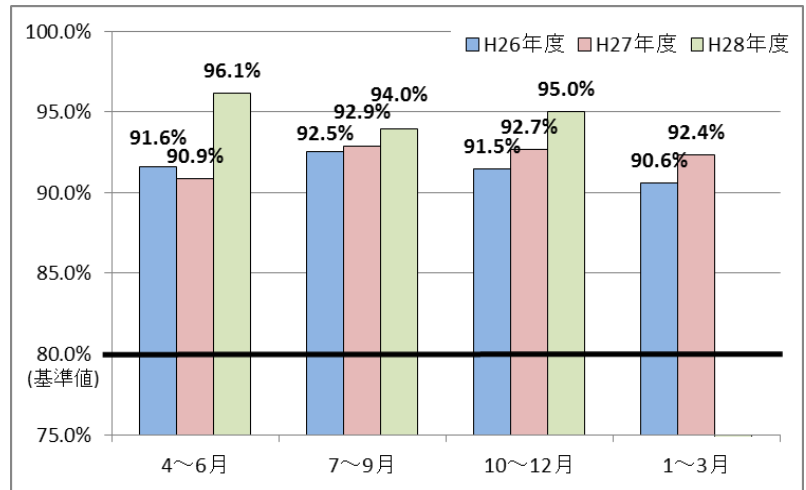
QI指標 ③在宅復帰率(一般病棟・回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟)について紹介します！！

<一般病棟>

急性期疾患の治療・回復を目的とした病棟です。ここでの自宅退院とは、自宅以外に介護老人保健施設(在宅強化型施設・支援施設)、介護老人福祉施設、社会福祉施設、有料老人ホーム、在宅復帰機能強化加算を届け出ている病棟への転院も含まれます。当院では「7対1入院基本料」を算定しているため、在宅復帰要件として80%が基準となっています。

退院支援部門の退院支援看護師と病棟担当のソーシャルワーカーが、主治医、看護師、リハビリスタッフとのカンファレンスを行い、治療後安心して退院できるように、患者様・ご家族様の意向を伺い、転院先や自宅退院調整の支援を行っています。

※回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟の在宅復帰率は平成28年度からのみとなっています。

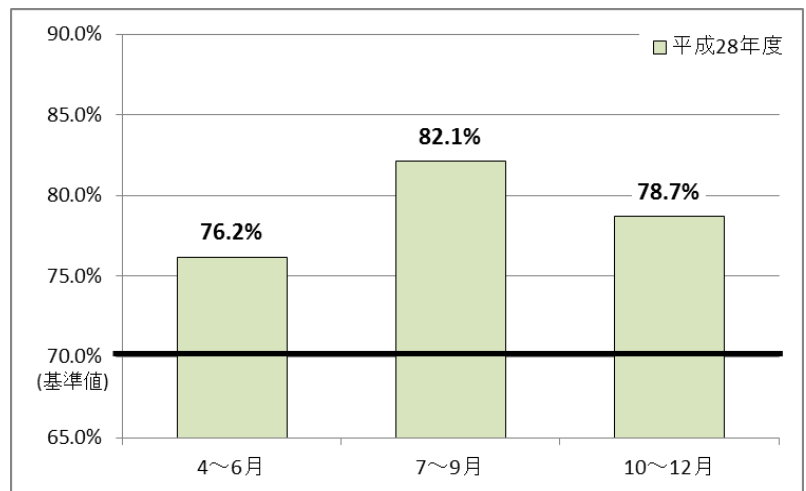


$$\text{＜計算式＞} = \frac{\text{退院先が「自宅等」の患者数}}{\text{一般病棟からの退院患者数}}$$

<回復期リハビリテーション病棟>

脳血管疾患や骨折の治療を終えた患者様が、集中したリハビリテーションを行うことで低下した能力を再び獲得するための病棟です。ここでの自宅退院とは、自宅以外に介護老人福祉施設、社会福祉施設、有料老人ホームも含まれます。当院では「回復期リハビリテーション病棟1」を算定しているため、在宅復帰要件として70%が基準となっています。

入院相談は、医師、看護師、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカーとの判定会の結果を受け入院調整を行います。入院後、安心して在宅生活を送れるよう、医師、看護師、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカーがチームでサポートします。家屋調査で、担当ケアマネジャーと連携を取り、住宅改修や福祉用具、介護サービスの紹介を行います。また、患者様やご家族様の不安状況によって試験外出や外泊を行うことができます。ご家族様と共に在宅生活をイメージしながら



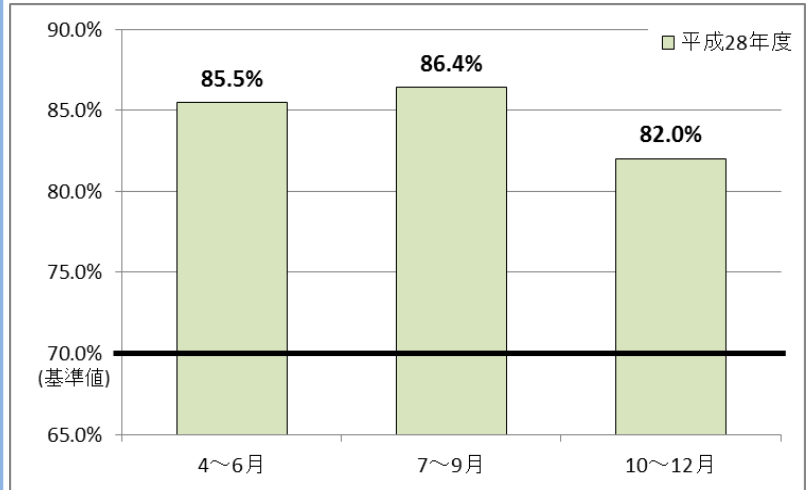
$$\text{＜計算式＞} = \frac{\text{退院先が「自宅・居住系介護施設」の患者数}}{\text{回復期リハビリテーション病棟からの退院患者数}}$$

ら退院日時調整をしていきます。在宅に戻ることが難しい場合、有料老人ホーム、介護老人保健施設への紹介、転院調整をしています。

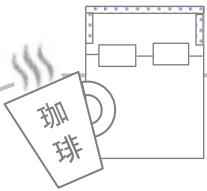
<地域包括ケア病棟>

病気やケガの治療が落ち着いた後、退院に向けて準備を整える病棟です。ここでの自宅退院とは、自宅以外に介護老人保健施設(在宅強化型施設・支援施設)、介護老人福祉施設、社会福祉施設、有料老人ホーム、在宅復帰機能強化加算を届け出ている病棟への転院も含みます。当院では「地域包括ケア病棟入院料(入院医療管理料)1」を算定しているため、在宅復帰要件として、70%が基準となっています。

平成28年4月より地域包括ケア病棟を開設しました。主治医、看護師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーなどが協力し、治療を継続しながら日常生活に必要な訓練、在宅療養に必要なサービスの調整などを行っています。



<計算式>
$$= \frac{\text{退院先が「自宅等」の患者数}}{\text{地域包括ケア病棟から退院、転院した患者数}}$$



ちょっと豆情報

平成28年4~12月退院患者、「自宅」からの入院で「自宅以外の施設・転院(療養型病院)」への退院患者割合をご紹介します!!

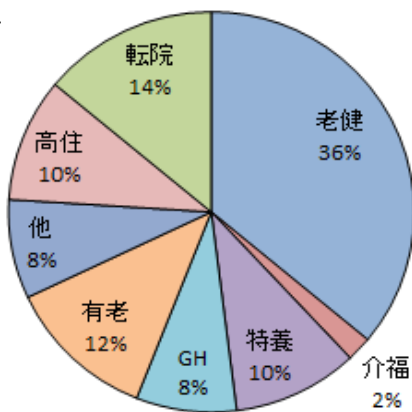
平成28年4~12月 退院

	一般	回復期	地域包括
(1) 自宅からの入院数 (施設・転院は除く)	2,076	103	303
① (1)のうち自宅への退院数	1,878 (90.5%)	79 (76.7%)	207 (68.3%)
② (1)のうち自宅以外の施設退院・療養型病院への転院数	50	21	78

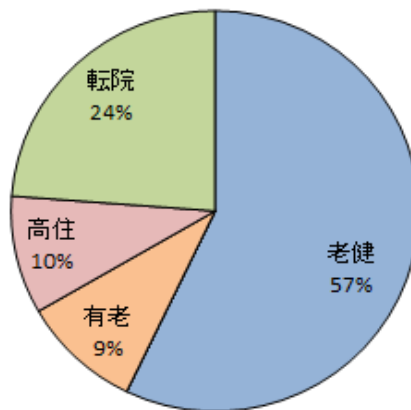
- 老健 ... 介護老人保健施設
- 介福 ... 介護老人福祉施設
- 社福 ... 社会福祉施設
- 特養 ... 特別養護老人ホーム
- GH ... グループホーム
- 有老 ... 有料老人ホーム
- 他 ... その他施設(多機能小規模型など)
- 高住 ... 高齢者集合住宅
- 転院 ... 転院(療養型)



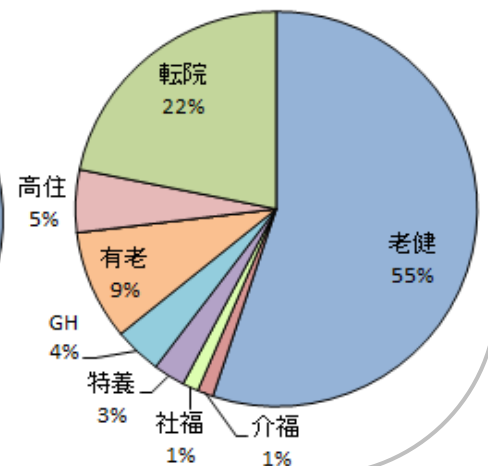
<一般病棟>



<回復期リハビリテーション病棟>



<地域包括ケア病棟>



今回は 救急車・ホットラインの応需率 を取り上げます!!
おたのしみに ... ♪